

令和5年

沖縄全戦没者追悼式



第33回「児童・生徒の平和メッセージ」図画部門 中学の部 最優秀賞
浦添市立港川中学校3年 砂川 理々那「沖縄から平和を紡ぐ」

日時：令和5年6月23日（金）午前11時50分～午後0時40分
場所：平和祈念公園（糸満市摩文仁）

沖縄県 沖縄県議会

令和5年沖縄全戦没者追悼式次第

- | | | |
|---|----------|--------------------|
| 1 | 開式の辞 | 沖縄県副知事 |
| 2 | 式辞 | 沖縄県議会議長 |
| 3 | 黙とう | |
| 4 | 追悼のことば | 沖縄県遺族連合会会長 |
| 5 | 献花 | |
| 6 | 平和宣言 | 沖縄県知事 |
| 7 | 「平和の詩」朗読 | |
| 8 | 来賓あいさつ | 内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長 |
| 9 | 閉式の辞 | 沖縄県副知事 |
| ◆ | | |
| 1 | 総合司会 | NHK沖縄放送局アナウンサー |
| 2 | 手話通訳 | 沖縄県身体障害者福祉協会登録手話通訳 |

式 辞

本日ここに、岸田文雄内閣総理大臣をはじめ、衆参両院議長、御来賓の御臨席と、御遺族の御参列を賜り、全ての犠牲者の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、御遺族の皆様にも心から哀惜の意を表します。

太平洋戦争末期、ここ沖縄の地では一般住民を巻き込んだ凄惨な地上戦が行われました。鉄の暴風と呼ばれた激しい空襲や艦砲射撃は、昼夜を問わず雨のように降り注ぎ、逃げ惑う民を襲い、戦闘地域と住民が身を隠す避難地域の区別はなくなりました。沖縄戦の実相は、人間の醜さの極致と言われ、今、語り継ぐことの難しさに直面しています。

戦場に駆り出された沖縄の若者たちは、自らが授かった教育を信じ、明るく朗らかな日常にすぐに戻ることができることを疑わず、沖縄戦に組み込まれていく日々を過ごしました。このような混乱の中で、自らに課された義務を成し遂げるため、個々には何の怨恨もなき国家間の戦争の犠牲となり、尊い命が失われたことは、人類最大の不幸であります。

78年前の今日、沖縄戦は組織的な戦いを終えたとされ、この地に残された人々は、27年に及ぶアメリカ世、そして昨年50周年を迎えた本土復帰を経た時代を生き抜くこととなります。歌と踊りをこよなく愛する琉球文化からは華々しさが消え、焦土と化した島を歩く人々の表情からは生気が消えました。人間が人間でなくなる世界を体験した生き残りとして、あらゆる心身の病に耐え、支え合いながら、まだ見ぬ沖縄の未来を懸命に育てていきました。

この季節に降る雨は、沖縄の青く美しい海と色鮮やかな草花にとって重要な恵みです。平和な時も、争いの時も等しく降り注ぐその雨は、そこに生きる人々の記憶となります。

雨が降ると電話が鳴る。

今日は、雨が降っているね。

沖縄戦の生存者は、雨が降ると当時を思い出し、自分が生き残ったことの意味に思いを致し、心を寄せる語り部に語りかけます。

同時に、恵みの雨は、変わり果てた大地を再生するように、母の記憶を思い起こさせます。一本の芭蕉の木が布となり紙となるように、沖縄の恵みから紡ぐものは、世界を照らす平和の光となることを自覚し、その土地に生きた人々の証を受け継いでいかなければなりません。

世界は今、ウクライナ戦争による核の脅威が駆け巡り、地上戦もまた同様に現実のものとなっている中で、凄惨な地上戦を生き延びた私たち沖縄県民は、同じことが世界で繰り返されることの悲劇を、誰よりも知っています。この混沌とした時代にあって、ここ沖縄の地から、戦争のない平和な時代を祈ることがまやかしにならぬように、慈愛の本質は智慧であることを自覚し、未来の子どもたちへ紡ぐ土地の記憶が光の霊となって世界平和を照らす道しるべとなるよう、この地に生かされている意味を自らに問い続けることが真の慰霊に繋がるものと思います。

結びに、本日、心ならずもこの式典に参列できなかった皆様の平和への想いと共に、改めて、戦争のない世界的な恒久平和の確立に力の限り尽くすことを、ここに固くお誓い申し上げ、式辞といたします。

令和5年6月23日

沖縄県議会議長 赤嶺 昇

平 和 宣 言

1945年、今から78年前、ここ沖縄で一般住民を巻き込んだ悲惨な地上戦が繰り広げられました。

90日に及ぶ鉄の暴風は島々の山容を変え、豊かな自然と文化遺産のほとんどを破壊し、20万人余りの尊い命を奪い去りました。

沖縄県民は、地上戦だけではなく、南洋諸島からの引き揚げ船の撃沈や、学童疎開船の犠牲、10・10空襲、学徒の動員、戦争マラリアなど、想像を絶する被害を受けました。

毎年、6月23日を迎えるたびに、戦争体験者が戦争の不条理と残酷さを、後世に語り継いできてくれた実相と教訓を胸に刻み、あらゆる戦争を憎み、二度と沖縄を戦場にはしないと、決意を新たにしています。

戦後27年に及ぶ米国統治を経て、1972年に本土に復帰してから51年となりました。

しかしながら、現在もなお、在日米軍専用施設面積の約70.3パーセントが本県に集中し続け、航空機騒音をはじめ、水質や土壌等の環境汚染、航空機事故、米軍人・軍属等による事件・事故など、県民生活に様々な影響を生じさせています。

このため沖縄県は、在沖米軍基地の更なる整理・縮小、日米地位協定の抜本的な見直し、普天間飛行場の一日も早い危険性の除去と早期閉鎖・返還、辺野古新基地建設の断念等、基地問題の解決を強く求め続けてまいります。

昨年12月に閣議決定された「国家安全保障戦略」、「国家防衛戦略」及び「防衛力整備計画」においては、沖縄における防衛力強化に関連する記述が多数見られることなど、^{かれつ}苛烈な地上戦の記憶と相まって、県民の間に大きな不安を生じさせており、対話による平和外交が求められています。

ロシアによるウクライナ侵攻から1年4か月が経過しようとしており、現在も^{ゆうりょ}憂慮すべき事態が続いております。

沖縄県民は、国際社会の連帯と協力による一日も早い停戦が実現し、平穏な生活を取り戻せることを切に願っております。

今ある命、今に残る文化、自然環境、これらを未来を担う子や孫達に受け継いでいくことが、人々が共有する願いであるということを確認合ってまいりましょう。

アジア太平洋地域における関係国等による平和的な外交と対話による緊張緩和と信頼醸成、そしてそれを支える県民・国民の理解と行動が、これまで以上に必要になってきています。

私たちは、アジア太平洋地域における観光、経済、環境、保健・医療、教育、文化、平和など多分野にわたる国際交流を通じて、沖縄県が築いてきたネットワークを最大限に活用した独自の地域外交を展開し、同地域における平和構築に貢献できるよう努めてまいります。

沖縄県では、ここ平和祈念公園に、「沖縄県平和祈念資料館」と「平和の礎^{いしじ}」を建設し、戦争の犠牲になった多くの^{たま}み^{とむら}霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次世代に伝え、世界の恒久平和を願い続けております。

民間においても、幅広い世代による平和への行動が様々な場面で行われており、平和を願う輪が広がっています。

また、平和につながる身近な社会貢献活動に光を当てた「ちゅうちな一草の根平和貢献賞」や「沖縄平和賞」を通して、平和を希求する「沖縄のこころ」を世界に発信するとともに、沖縄がアジア太平洋地域の国々との架け橋「万国の津梁^{しんりょう}」となることを目指しております。

非暴力の信念を貫いたガンジーは「平和への道はない、平和こそが道なのだ」という言葉を残しています。

「平和」とは、戦争や紛争のない状態にとどまらず、貧困、暴力、人権の抑圧、差別、環境破壊等がない、安らかで豊かな状態であり、本県が発信する「沖縄のこころ・チムグクル」には、人間の尊厳を何よりも重く見る「人間の安全保障」も含まれます。

沖縄県は、全ての人への不当な差別は許されないことを宣言するとともに、人々が互いに人格と個性を尊重し合いながら共生する誰一人取り残すことのない優しい社会の実現に全力で取り組んでまいります。

私たち一人一人が平和について考え、沖縄から世界へ平和のバトンをつなげ、核兵器の廃絶、戦争の放棄、恒久平和の確立に向け絶え間ない努力を続けてまいります。

うちな一　ちゆぬちや一　いく　ゆ　一　くらし　みやてい
沖縄ぬ人々が幾世代かきてい生活ぬ指針にっし
すだ
育ていていちやる
たげ一　ちげ一み　あ　うむん　あ一　ちむぐる
相互ぬ相違ぬ在し尊重じ合いる肝心、
ぬちだから　て一しち　くくる　む　ぬち　たから
生命大切にる心持ち（命どう宝）、
て一ふい一ゆ一　とう　いえ一じゆ一どう一さ一　ちなじぐる
平和時代求めいる人々同志ぬ連結心。

いくさ　あわり　あた　ちゆぬちや一　さちじゃち
戦争ぬ悲惨んかい体験ていちやる被災者からぬ未来ん
ん　ゆしぐとう　あとうぬゆ一　ちて一
かい向かていぬ教訓、次世代んかい伝承ていいちゆしが
わった一　すくぶん
私達ぬ使命やいび一ん。

うまんちゆ　なま　さちじゃち　しやわし　ゆ一ゆ一
万人が今、あんし未来んかいぬ幸福とう安息とう
ぬ　じゆみ　む　た　ゆ　一　ちむてい一ち　し一　な
そ一てい　希望ぬ持参り一る時代　共　なてい築上ち
いちゃびらな。

We, the people of Okinawa, have long cherished the spirit that appreciates the diversity in each and every one of us.

We have always known in our souls that it is life, itself, that is more important than any treasure.

We are united, as a people, by the longing for peace.

We sincerely believe that it is our noble mission to bear witness to the painful lessons from the countless war experiences and to pass on these messages to future generations.

Let us endeavor to build a society where all people are able to imagine happiness and eternal peace for everyone, for now and forever.

本日、慰霊の日に当たり、国籍の区別なく犠牲になられた全ての^{たま}み霊に心から^{あいとう}哀悼の^{まこと}誠を捧げるとともに、先人達から語り継がれてきた平和の尊さを伝え続け、未来を生きる子や孫達のために、よりよい沖縄の未来の創造を目指し、全身全霊で取り組んでいく決意をここに宣言します。

令和 5 年（2023年） 6 月 23 日

沖縄県知事 玉城 デニー

※しまくとぅば及び英語の訳

沖縄の人々が培ってきた お互いの違いを認め合う心、
命を大切にする心（命どう宝）、平和を求める人々とつながる心。

戦争体験者からの未来への教訓を次の世代へ伝えていくことは私たちの使命です。

全ての人々が今、そして未来に幸せと安息を夢描くことができる世の中を共に築いていきましょう。

今、平和は問いかける

私立つくば開成国際高等学校三年 平安名 秋

夏六月
溶けかけたアイスを手を走り出す
緑萌ゆるこの島の昼下がりに

礎に刻まれた「兄」に
まるであの日のように
そっと触れるおばあさんの涙は
陽炎が登る摩文仁の丘に
ただ果てしなく広がっていく

その涙は体を包み込み
私を「あの日」へと引きなう

限りないこの空は
何を覚えているのだろうか
涙に満ちたおばあさんの瞳は
何を語りかけているのだろうか

七十八年前の
あの日
あの時
かけがえのない
たったひとつの命が
憎しみと悲しみの中で
散っていった

名も無き赤子の
微かな
微かな泣き声は
震える母の手によって
冷たく光の無いガマの中で
儚く消えていった

幾多もの砲弾が
紺碧の海を黒く染める鉄の嵐となって
この島に降り注いだ

戦争が起きる前
そこには日常があった

私達と同じように
原っぱを駆け回り
友達とおしゃべりをする
みんなが暖かいご飯を食べ

時には泣き
時には笑い
時には「ありがとう」を伝える

そんな今と変わらない日常が
平和が
そこにはあった

平和は不確かだ
脆く崩れやすい
いつもすぐそばにあるのに
いつのまにか消えていく

おばあさんの涙は
摩文仁の丘に永遠に灯る平和の火は
今、私達に問いかける

平和とは何かを
私達に出来ることは何かを

私は過去から学び
そして未来へと語り継いでいきたい
おばあさんの涙を
沖縄の想いを

かけがえのない人達を
決して失いたくはないから

今日も時は過ぎていく
いつもと変わらずに

先人達が紡いできた平和を
次は私達が紡いでいこう

そして世界に届けていきたい
平和を創り
守っていく
この沖縄の「チムグクル」を

へいわだからたのしいね

浦添市立港川小学校2年

興座 悠真

はる休みにかぞくで、石がきじまにいったよ。ひこうきからうみを見たよ。青とみどりいろできらきらしていたよ。空は、くもがちぎれて青くてきれいだったよ。ぼくのころは、うきうきでいっぱいだったよ。石がきじまのほいくえんで、あそんだよ。はじめてあうおともだちもいたけど、すぐになかよくなっておにごっこをしたよ。やぎさんもいたよ。子どもたちがたくさんいて、やぎさんもたのしそだったよ。ぼくは、すぐに石がきじまが、大すきになったよ。たのしいことがいっぱいの石がきじまだよ。

おかあさんがいったよ。

「はるま、こんなにきれいで、たのしい石がきじまだけど、むかしここでもせんそうがあったんだよ。やえ山へいわきねんかんへいってみようか。」
ぼくはすこしこわかったけど、おべんきょうすることも大じだから、ゆう気をだしていってみたよ。

せんそうでたくさんの人がしんでいるしゃしんを見たよ。ぼくだんがおちて、町がぐじゃぐじゃのどうがも見たよ。こわいな、かえりたいなとおもったよ。もしぼくがせんそうのじだいにいたら、おとうさんがへいたいさんになって、かぞくみんなばらばらになるのかな。さびしすぎて、ころろがいたいよ。とおいくにまできこえるぐらい大きなこえでないてしまうよ。

石がきじまから、かえるひこうきにのったよ。みんなたのしそように、にこにこしていたよ。ひこうきは、かぞくでりよこうにいくたのしいのりものだよ。せかいのみんなが、いろいろなくにへいくのりものだよ。だから、こわいぼくだんはおとしてほしくないよ。ぼくは、空の上でおいのりしたよ。せんそうはやらないで。ずっとへいわでありますように。